

GT-R Magazine

143 2018/Nov

平成30年10月1日発行・発売(偶数月1日発行・発売)通巻128号 第22巻 第6号

Auto Messe Web
<https://www.automesseweb.jp>

特別付録
本誌オリジナル
タオル

Rに一生乗り続けたい! 復活のための手法と道程

再生に懸ける希望



富士スピードウェイに2,000台超の歴代GT-Rが集結!
「R's Meeting 2018」
イベント速報!



R's Meeting 2018

in 富士スピードウェイ

暁の雨天転じて 絶好のGT-R日和

異常なほどの酷暑、台風直撃による豪雨被害。予測不能な気象に翻弄された2018年ニッポンの夏。

毎回イベントが近づくとつれ、最も気掛かりになるのが当日の“天気”なのだが、
今年の「R's Meeting」は奇跡的な晴れ間によって富士山の姿が露わとなった!

文:野田航也(本誌) 写真:木村博道/清水良太郎/佐藤靖彦/柳田由人/小林 健(本誌)/増田貴広(本誌)



Rファンの気持ちを乗せて



過去最高規模での開催





9時のイベントオープニングとともに、「パレードラン」がスタート。今年は珍しくハコスカの姿がなかったが、その代わり特別ゲストが駆る「ケンメリ」が乱入!



早朝から多くのRが富士の西ゲートに集結。未明まで雨が降り続いていたため路面は濡れている状態だったが、眩い朝陽が昇り始めると見る見るうちに乾き始めた



ゲート前は毎年恒例の記念撮影スポット。例年はイベント終了後に見かける光景だったが今年は来場者の出足が早かったため終日セルフ撮影会で盛り上がっていた



一時的に、上空には富士名物の霧が立ち籠めるも雨は降らず。一般駐車場にはミニバンや他車種の姿もチラホラ。がしかし、圧倒的多数を占めるのは歴代GT-Rたち!



間 寛平師匠&テンダラー 浜本広晃氏も「参加」



急遽、愛車撮影会にもノリノリで飛び入り参加！ TVで見るのと同じコミカルな動きで来場者を楽しめると、浜本氏も負けじとそれに対抗！ このあたりはお二人とも笑いのエンターテイナー。一挙手一投足が見逃せない！



寛平師匠は岡山国際での走行経験はあるが、富士は初なので桂 伸一氏のレクチャーを受けてコースを4周。最後にはホームストレートを240km/hで駆け抜けるなど全開走行。桂氏は浜本氏を助手席に乗せてケンメリでも疾走！



87社のショップが軒を並べるイベント広場も練り歩いた。お二人が向かう先々でファンが集まった。生粋のクルマ好きとあって、チューニングカーから旧車まで興味新々。最後には「来年も参加したい」というコメントも！

寛平師匠と浜本氏がそれぞれの愛車のR34とケンメリで参加。会場に笑いと話題を振りまいた。クルマ好きとして知られるお二人だから、ゲストとして登壇いただくだけでなく、来場者と同じくイベントを存分に堪能いただく準備。当日はピットから見るスタンドの大きさに感動し、レーシングスーツに着替えてまた感動!! とのっけから大興奮。パレードランでは富士の広さに驚き、デモランでは桂 伸一氏による全開走行に目を丸くしたりと存分に堪能。そこにあったのは芸のプロではなく、いちオーナーとしての笑顔だった



Rファンの情熱に負けないよう邁進します!

**過去最高の盛り上がりをもせた
平成最後のR'sミートینگ!**

平成22(2010)年の復活から数えて9回目の開催となった今年の「R'sミートینگ」。イベント前には台風21号の上陸により近畿地方が、そして北海道胆振東部地震の発生で北海道広域が甚大な被害に遭うなど、本番まで予断を許さない日々が続いていた。実際、イベントを楽しみにされていたものの、当日の来場を断念せざるを得なかった方もいらっしやることと思う。被害に遭われた皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。

われわれスタッフはイベント準備のため富士に前日入りしたのだが、ここでも突然雨が降ったり止んだり不安定な天候で、「明日は大丈夫かな」と気が気ではなかった。がしかし、またしても本番で奇跡は起きた! 早朝まで降り続いた雨は5時頃には止み、R'sミートینگでははなかなかに目に掛かれなかった富士山がくっきりと姿を現わしたのだ。

今年は昨年までに対して開催時間が1時間前倒しの9時~15時に変更したこともあり、ゲートオープンとともに例年以上の来場者がイベント広場に駆け付けてくれた。毎年の約束ごとであるじゃんけん大会時の集合写真(上)を見ても、これまでで最も参加者の多い記念撮影カットとなった。ちなみに、今年は「来場者数」6882人、出展小間数「91小間」で、ともに過去最高記録を更新した。

メインステージでは46ページでも紹介しているように、第2世代スカイラインGT-Rの開発責任者である伊藤修令氏、田口浩氏、渡邊三氏によるR'sトークショーを開催。渡邊氏からは「もうさすがにネタ切れなのではないですか?」と毎年弄られているのだが、どっこい、まだまだファンが知らない秘話はあるものだ。ステージ前に集まった方々は真剣な表情で貴重な話に耳を傾けていた。

そして、今年の目玉の一つが、お笑い界から間寛平師匠とテンダラー 浜本広晃氏のお二人を特別ゲストとして迎え、来場者とともにイベントを楽しんでいただいたことである。本誌読者ならご存知の方が多いだろう。寛平師匠は大のGT-Rファンで、ベイスайдブルーのR34 GT-Rオーナー。一方、浜本氏もまた大のケンメリファンで、かなり気合いの入ったGT-R仕様を所有。しかも、それぞれの愛車を富士に持ち込んでいた、というところで、パレードランやデモラン、愛車撮影会などにも参加してもらったことで、初体験のR'sミートینگを徹底的に楽しんでいたことにした。お二人は終始「すごい」「楽しい」を連呼! ステージではもう流石としか言いようがない話術で大爆笑の渦に巻き込んでくれたが、会場を散策している間は皆さんと同じいちファン。過激なチューンドGT-Rや極上コンディションの展示車両を目の当たりにして、「GT-Rってやっぱりすごいクルマなんやな」と納得されていたのが印象的だ。

そして、もはやR'sミートینگのレギュラーゲストと言えるR35 GT-R統括責任者である田村宏志氏と、モータージャーナリストの桂伸一氏も寛平師匠、浜本氏とともにステージに登壇、トークショーで会場を盛り上げてくれた。

終日好天に恵まれ、最高のイベント日和となったR'sミートینگ2018。当日の模様は「オートメッセWEB」(<https://www.automesseweb.jp/>)にもアップされており、11月1日(木)発売の本誌別冊「GT-R OWNERS FILE Ⅷ」では、誌面+付録DVDでイベントの臨場感をお伝えする予定だ。

さて、次回開催の2019年は、いよいよGT-Rにとって「メモリアル」となる記念すべき年。さらにパワーアップしたR'sミートینگをお届けしようと思っ



最新トレンドが凝縮された年に一度のカルチャーパーク

興奮のR'sパラダイス

メイン会場となるイベント広場はR's Meeting当日、GT-R文化交流パークへと様変わり。
チューニングからリフレッシュ、そしてR'sグッズまで、最新のトレンドがここに凝縮！
気になるアイテムを「知る、探す、買う」。ファンとショップが深く交わる一日なのだ！

文：竹内俊介／石川大輔／佐藤 圭／山崎真一（本誌）

写真：木村博道／柳田由人／清水良太郎／佐藤靖彦／佐藤正巳／小林岳夫／小林 健（本誌）／増田貴広（本誌）

正統派からドレスアップ、グッズ系まで勢揃い!!

**R 35の楽しみ方が広がる
R 関連グッズ類も多数票**

イベント前日の富士スピードウェイは時折強く雨が降る生憎の天気。毎年天気は一喜一憂するのがR'sミーティングのお約束のようになっているが、イベント当日は早朝こそ曇っていたものの、午前中には抜けるような青空となった。

会場のイベント広場へは、6時の開門と同時に全国から多くのメーカー、ショップが到着。ブースを設営し軒を連ね、開始30分前には来場者を受け入れる準備が整っていた。

出展社数は過去最高の87社を数え、グラนด์スタンド裏の中段から会場を見渡すと、愛車撮影会参加車両を含めて、ブースメントと展示車両で埋め尽くされて、1日ではすべてを到底回りきれないと痛感。昨年にも増して規模は大きくなった。

今年のメインステージ前は、安全を考慮してブースを立てず、グループAのR32とR35・MY18の2台のみを展示。昨年この場所に特別企画展示として出展いただいた日産自動車、京商、そしてGマガブースはステージを背にして、右側の通称「扇下」に移動したのも新たな試みだ。

- CLUB RH9
- TUNED PRO SHOP GROUP
- フェニックスパワー
- TOP SECRET
- ENDLESS
- SABULIVE
- TMワークス
- ビットロードM
- PROSHOP SCREEN
- アートテック花塚
- ウイング・タケオ
- カーメイキングレヴュー
- GARAGE G-FORCE
- 佐藤商会
- JUNオートメカニック
- ツーシステム
- t-get
- 三重トップフェーエル
- イーネクスト
- AUTO SELECT
- GLOBAL AUTO
- CRAFT SPORTS
- NISMO大森ファクトリー
- Reverse
- IGNITION PROJECTS
- エイチ・ビー・アイ
- ATTKDオーテック
- エッチ・ケー・エス
- MCR
- エンケイ&RGF
- ENDLESS
- OS技研&GLION MUSEUM
- オオクボファクトリー
- OZ RACING
- オーディオファクトリー・サウンドプロ
- オートギャラリー横浜
- 小倉クラッチ
- カナザワボディ・リペア
- ガレージャクティブ
- ガレージマック
- ガレージョシダ/ダイコーゴム
- Kansai SEAVICE
- KUHL-RACING JAPAN
- 日下エンジニアリング
- Kn'sファクトリー
- SAURUS
- ジーンゲテクノエンジニアリング
- GTROC・R35GTRClub・クロスオーバーエンターテイメント
- JETSTROKE×Effector
- スピードマスター
- スリーエイチ・メテオ
- タカラトミー
- デアゴスティーニ・ジャパン
- ドゥーラック
- TOMEI POWERED
- TRUST
- NASHIN JAPAN
- ナカネレーシングデザイン with RN DESIGN
- NAPAC
- ナブレック
- 日産プリンス東京販売モータースポーツ室
- ネココーポレーション
- VARIS
- BBSジャパン
- FUJITSUBO
- BLITZ
- ブリッド
- プロジェクト・ミュー
- プロストックレーシング
- VOLTEX
- Mine's
- ミシュランタイヤ
- 緑整備センター
- MOTUL/テクノイル・ジャボンKK
- Moty's
- ラッシュモータースポーツ
- Real Speed Engineering
- リオ
- Liberty Walk
- レイズ
- REWITECH
- レーシングサービス タカギ
- RECARO
- ロッキート
- ロブソソレザ
- 横浜ゴム
- ワーク
- ワイズスクウェア
- 富士スピードウェイ (掲載順)
- 企画展示
- 日産自動車
- KYOSHO



過去最大の87社を巡ってカーライフをカスタマイズ



クールレーシング・ジャパン、リパティワーク、ジェットストロークなど全国に名を馳せるドレスアップショップの展覧が相次ぎ、イベント会場で個性を主張



過去最高の87社出展でブースはイベント広場いっぱいまで拡大。愛車撮影会の参加車両を含めて会場だけで250台以上のRが集結。ここだけでも見切れない



特別ゲストとして初めて来場された吉本興業の間 寛平師匠とテンドラーの浜本広晃氏もイベント広場を散策。会場の熱気と台数の多さに圧倒されたようだ!



今年はクラフトスポーツがブースで独自イベントを開催。NISMO関係者を招いたトークショー、公開査定実演、じゃんけん大会など催しが多数行われた

昨年はアジア系パワートメーカーの初出展が複数見られたが、今年はドレスアップ系ショップが増加。出展車両もR35の数が増え、カスタマイズの形も多様化。R35の楽しみ方が広がっている。対する第2世代Rはレストアやメンテナンスが中心。外装だけではなく、内装、機関部分に至るまで小技、大技含めて多くの延命策が会場に溢れ、ニスモヘリテージ以外にも長く乗るためのサポート体制は徐々に整いつつある。

もう一つはホビー系ショップの躍進。今年はタカラトミーやデアゴスティーニといった大手メーカーからも参加。クルマをイジって走るだけでなく、関連のグッズやアイテムなど含めたトータルでGT-Rの世界を楽しむ人が増えているようだ。GT-Rが誕生して今年で49年目。文化として成熟し、オーナーにとっては生活を共にする家族の一人に近い存在になっているのだろうか。

また、昨年伝えた各ブース独自のコンテンツは広がりをみせ、今年は『クラフトスポーツ』が、新たにイベントを実施。こうした自発的な動きは、来場者にとってはうれしい悲鳴。どこを回るか。事前に計画しておく必要があるだろう。

今年の来場者数は昨年をさらに超えて6882人。出展各社だけでなく、参加するオーナー&ファンも着実に増え続けるR'sミーティング。GT-R 50周年を含めて、記念イベント広場がさらなる興奮の坩堝と化すことは疑いようがない。



もはや毎年恒例となった記念撮影。全国の有名チューナーが勢揃いとおって思わずカメラを向ける来場者も少なくなかった! 各ブースでは来場者からの質問に丁寧に答えていた



メインステージ前の中央エリアに陣取ったRH9ブースでは、グッズの他に加盟店が仕上げたフルチューンのデモカーが勢揃いした



GT-RロゴをあしらったR35用オイルレベルゲージもリリース。手軽にドレスアップできるとあってファンにはたまらないアイテムだ



静粛性と抜けのよさを両立した消音バルブ搭載のR35 φ90フルチャンマフラーV3

CLUB RH9

TUNED PRO SHOP GROUP

☎059・365・5105 <http://club-rh9.com/>

GT-Rを知り尽くしたプロショップ集団

精度の高いチューニングをユーザーに提供しようと、ノウハウや情報の共有を進めてきたチューニングプロショップの連合体「CLUB RH9」。全国33社、36店舗が加盟する同グループではオリジナルパーツの開発にも意欲的に取り組み、GT-R用パーツを多数リリースしてきた。今回も、仕上がったばかりという新作の第2世代R用バルブ付きフルチャンマフラーの他、取り扱いを検討中という海外製のカーボンローターなどを展示。確かな品質と高性能を来場者にアピールしていた。またTシャツやエンブレム、ステッカーなどのグッズも販売しており、こちらも人気を集めていた

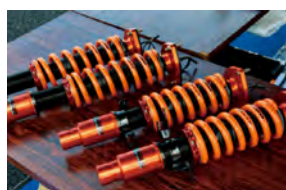


海外製のカーボンローターやアルミ削り出しナックルなどマニアックなアイテムも展示された。これらは発売を睨んで参考出品したモノというから、乞う御期待だ

CLUB RH9



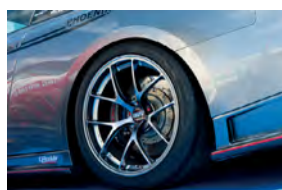
R35の富士スピードウェイ最速を目指して製作が進められる手前のR35は、TD-06SH改27Zタービンを装着した1,000ps仕様。GR6ミッションも強化済みで、不安なくアクセルを踏み込める。足まわりはアラゴスタの3WAY車高調をセットした



しなやかな路面追従性能を備えるアラゴスタベースのオリジナル車高調は、ダンプロニック対応で街乗りも快適だ



MY17対応のエアロパーツはカーボンリップスボイラーに加え、サイドステップやテールフィニッシャーも用意された



BBSの鍛造ホイールやエンドレスのモノブロックキャリパーなどでフットワークを強化するなど妥協なく仕上げる

フェニックスパワー

福井店 ☎0776・67・2980 京都店 ☎0774・48・1157 www.phoenixs.co.jp/phoenixs/

R35チューンを牽引するスペシャリスト

年に一度のR's Meetingは、遠方に住むGT-R乗りのユーザーと再会できる場所として捉えているというフェニックスパワー。ブースでは全国のユーザーとの交流を深めていた。今年の展示車は仕様異なる4台のR35。後期型のライトチューンからFSW最速を狙うサーキットアタック仕様までを並べ、来場者の注目を集めていた。またECMセッティングでも定評のある同店では、毎年恒例となったECMの出張データ書き換えサービスも実施。「EcuTekのバージョンアップによりさらに機能が追加でき、より完成度が高いデータに仕上げるのが可能になりました」と横山耕治代表



VR38のエンジンリフレッシュプランも好評。エンジン内部を強化した上でオリジナルのTD-06SH改24Vタービンをセットしたこの車両は、なんと約1,200psを発揮



日常での快適性を備えつつサーキットでの楽しさを引き上げたクラブマンレーススペック (CRS)。大森ファクトリーがそのノウハウを注ぎ込んだ4台のデモカーが並んだ光景はまさに壮観の一言！ 各車両のまわりには常にたくさんの人だかりができていた



R35が搭載するO/H済みのVR38はS1エンジンメニューも施されている。リフレッシュ時期を迎えるユーザーは注目すべし！



グレーのS2エンジンを搭載したR32はカーボンのインレットパイプのほか、新作のオイルクーラーキットも装着していた



R35スペックVに採用されたカーボンローター。これをR34に装着していたのもトピック。ただし、市販化の予定はないようだ

NISMO大森ファクトリー

☎045・505・8508 http://www.nismo.co.jp/omori_factory

Rのコンディション維持をバックアップ

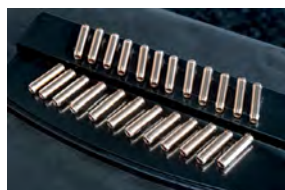
NISMO直営のプロショップである大森ファクトリーはR32からR35まで4台のデモカーを持ち込んだ。R34はテストを兼ねてR35用のカーボンローターを装着、R35は限定100セットのBBS製・鍛造ホイールを履くなど見どころも満載。たくさんの来場者がブースを訪れて、スタッフを質問攻めにしていた。「車両診断メニューも8月に一新しました。年式も古くなっているの、点検項目や内容を見直しています。お客さまのご要望をじっくりヒアリングして、最適なリフレッシュプランをご提案できるように心掛けていますので、ぜひご相談ください」とマネージャーの長谷川及与氏



R35ユーザー待望のBBS製のニスモ鍛造アルミホイールもお披露目。20インチサイズとなるこのホイールは艶やかなグロスブラック仕上げ。足元を引き締めてくれる



ブースにはR32からR35まで4台の歴代GT-Rが勢揃い。サーキット走行で得たノウハウをオーナーに還元する。エンジンパーツのようなハード系だけでなく、Tシャツなどのアパレルまで幅広く展示しており、気軽に立ち寄れる雰囲気なのだ！



リン青銅ロングバルブガイドは、1台分で4万8,000円。純正より1mm長くすることで潤滑性や耐久性が向上する



ピストンやバルブガイドをテストしたR32デモカー。耐久性を確認できるまでサーキット走行を繰り返したという



ドライシルキーのTシャツ。以前の製品より薄手にすることで、今年のような猛暑でもスッキリした着心地だ

Reverse

☎0285・82・4870 <http://www.reverse-seed.com>

コーティングによりエンジンの耐久性が向上

チューニングやメンテナンスはもちろんのこと、GT-Rによるサーキット走行も熱烈に応援する栃木県のReverse。今年の目玉はR32デモカーで6年に渡ってテストを続けて、ようやくお披露目となったコーティング済みのエンジンパーツだ。ブラックパールと名付けられたピストンは、フッ素樹脂と耐摩耗性樹脂などを組み合わせた皮膜の上に、モリブデンコーティングを施した2層コート。チューニングエンジンによる度重なるサーキット走行でもまったく問題なく、ついに正式リリースの運びとなった。価格もリーズナブルなので、オーバーホールを考えているオーナーは要注目



写真は2層コーティングが施された、オリジナルのRB26用ピストン。ノーマルをはるかに上回る耐久性を誇りながら、価格は1個あたり5,500円に抑えている

特別
企画展示
1



マーチNISMO S



GT-R NISMO



日産自動車

0120・315・232 <http://www.nissan.co.jp/>

NISMO ROADCAR体験コーナー

触り放題&見放題の太っ腹
ニスモの世界を存分に堪能

一昨年からR'sミーティングに出展。今年もイベントに華を添えた日産自動車。昨年はR35ラインオフ1号車、14年モデル、最新の17年モデル（乗り込み可能な車両を含めて2台）が持ち込まれ、「日産GT-Rの10年分の進化、変化を振り返る」をテーマとした展示であった。

今年の企画展示テーマは「ニスモロードカー体験」。現在販売される全7車種がイベント広場の特別展示エリアにずらりと並んだ。ボディカラーはすべて白で統一され、ニスモの世界感を演出していた。

ニスモロードカーはGT-Rのセカンドカーだけでなく、断腸の思いでGT-Rを降りたオーナーが次のクルマとして選択する人も多い。



NISMO ROADCAR以外にステージ前にはR35の'18年モデルを展示。日産自動車の出展はR's Meetingを開催する上で心強い！

すべて車両が乗り込み可能だったため、来場者がひっきりなしに訪れて、触れて楽しんでた。笑顔になる人、真剣に考え込む人などさまざまな人、クルマ好きの心を刺激したことは間違いなし。官能性はマーチからGT-Rまで共通なのだ。

ノートNISMO S



リーフ NISMO



セレナNISMO



フェアレディZ NISMO



ジューク NISMO RS



ディーラーでの新車保証に加えて、家族に反対されない一定の乗り味を確保しながら、走りの性能、ビジュアル面を含めてスタンダードモデルよりスポーツ感を演出するのがNISMO ROADCARの魅力！キャラクターに合わせて独自のモディファイが施されているが、すべての車両は共通の世界感を演出しており、頂点のGT-Rの姿も目に浮かぶ。セカンドカーとして、Rに憧れるオーナーカーとして手にする人が多いのも頷ける。今回は最新のセレナとリーフに注目が集まっていた



過去最高の参加者を勝ち抜き 豪華アイテムをこの手に

じゃんけん大会



今年のじゃんけん大会は過去最高の参加者がステージ前に会し、熾烈戦いを繰り広げた。毎年、始める前に集合写真を撮影するのだが、レンズ内に入りきらず、皆さんに中央へ集っていただき、何とか全員収まったほどだ。参加者だけでなく、賞品を協賛いただくメーカー各社の皆さんも熱く、例年以上に豪華賞品が目白押しだ（ご協賛いつもありがとうございます）。MCのオギ姉のじゃんけんコール後に、参加者のため息と歓喜の声はいつも以上に会場内を木霊。勝負は無情だが、本気で熱くなるこの時間は誰もが楽しめるはずだ

その他協賛各社

エンケイ／ENDLESS／OZ RACING／小倉クラッチ／京商／日下エンジニアリング／GLION MUSEUM／スピードマスター／タカラミー／ドゥーラック／NISMO／BBSジャパン／FUJITSUBO／ブリッツ／プロジェクト・ミュウ／VOLTEX／ミシュランタイヤ／MOTUL&テクノイルジャポンKK／REWITEC／ロブソンレザー／横浜ゴム／吉本興業／レイズ／レカロ／ワーク（50音順）



TRUST R34アルミラジエータ



HKS EVC6 IR-2.4



HKS EVC6 IR-2.4



TOMEI POWER Ti-SPORTS



R.S.Eカムシャフト

豪華モニター賞品と 勝ち抜いて手にした猛者たち

過去最高のオーナー＆ファンが参加したじゃんけん大会。その白熱の戦いを勝ち抜いたオーナーは賞品を愛車に装着（取り付け工賃はオーナー負担）し、編集部レポートと写真提出いただきます。読者代表によるテストレポートはGT-R Magazine 144号（'18年12月1日発売予定）、145号（'19年2月1日発売予定）に掲載予定です

